

第107号  
2012年1月1日発行

# 愛道

あいどう



テーマ「ちから」

社会福祉法人 足羽福祉会

<http://www.asuwafukushikai.jp/>



(長寿を祝う会:米寿記念品贈呈の様子)

## 新年のごあいさつ

社会福祉法人 足羽福祉会  
理事長 高村昌裕

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という大惨事が日本の将来、  
しいては私たち一人ひとりの生活そのものに対して  
未来への不安や願い、絆や支え合いの大切さといっ  
たあらゆる機運をもたらしました。まさに「私たち  
はどう生きるべきか」という根本的な問いが投げか  
けられた、そんな一年でした。

さて昨秋、私の知人の辻英之さんが執筆された  
「奇跡のむらの物語」の中で、彼が携わった過疎化  
が進む長野県泰阜(やすおか)村の「山村留学」を通  
して、得られた尊いものをご紹介します。

最初はよそ者であった彼やその仲間たち、そして  
都会から来た子どもたちは、村の豊かな自然や古来  
より受け継がれてきた「生きる業わざ」に感動しながら、  
徹底的に話し合っ、さまざまな問題を解決しながら、  
たくましく生活を送っていく。その姿を見て、  
地元の村人たちは、長い間「こんな村、嫌だ」と否  
定的なとらえ方から、わが村のすばらしさに気づき  
「この村で自立していきたい」との想いで活動してい  
くようになるのです。その25年の足跡が、子どもた  
ちや村人たちのすてきな写真とともに丁寧に記され  
ていました。

この本を読んで、私が最も強く感じたことは、わ  
れわれの社会福祉事業においてもサービスを受け  
る利用者の方々と提供する私たちの二者関係だけ  
でとらえるのではなく、地域社会をしっかりと意識  
してかかわっていく必要があるということです。

元来より足羽福祉会は、地域の行事や奉仕活動  
に赴いたり、また施設の催しには地元住民の皆様や  
ボランティアの方々にお越しいただいたりしなが  
ら、お互いを尊重しつつ密接なつながりを大切に  
してきました。ある施設では災害発生時の緊急避難  
所として、一人暮らしのお年寄りを受け入れてほしい  
というニーズについて、地元住民の方との話し合い  
がなされましたが、ふだんから交流を深めていく中  
で、施設に対する抵抗感を取り除いておく必要があ  
ることに気づかされました。

地域社会とのつながりを通して、利用者の方やご  
家族、働く職員、そして地元住民の皆様が「この地  
域に足羽福祉会があつてよかった」と思っていただ  
けるよう、今年も一歩ずつ着実に、前を向いて進ん  
でまいります。

どうか温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

夢めざし  
歩み合わせて  
遠き道

足羽ワークセンター  
所長 大館嘉昭

初空に  
「共に」の心と  
笑顔の輪

足羽学園・足羽更生園  
園長 高村昌裕

岐路に龍  
日本の未来  
子に託す

足羽東保育園  
園長 矢納ともえ

共に生き  
共に集いて  
幾星霜

法人本部事務局  
局長 大間憲之

初山河  
叡智を以つて  
うち開く

足羽利生苑  
苑長 岩本昌雄

初日の出  
皆の思いと  
だぶらせる

愛全園  
園長 滝波正興

## 目次 もくじ

- 2 新年のごあいさつ
- 4 保護者の方のおかげです ----- 足羽東保育園
- 6 刺激が心地よい空間に ----- 足羽学園
- 8 いきいき ----- 足羽更生園
- 10 アスリートとしての挑戦 ----- 足羽ワークセンター  
～駆け抜けた世界の大舞台～
- 12 『ユニット化』思いも新たに ----- 愛全園  
～今、私たちにできること～
- 14 思いから引き出された力 ----- 足羽利生苑  
～Aさんとのかわりを通して～
- 16 足羽福祉会  
春夏秋冬 年間行事アルバム
- 18 愛のささえ

### 「表紙について」

子どもたちのいきいきした表情をみると「ちから」が湧いてきます！  
愛道を手に取った皆様にも「ちから」のおすそ分けです☆

足羽東保育園 大島直子



# 保護者の方のおかげです

保護者会活動の一環として、平成23年10月に『しゃべろっさ！つくろっさ！』と題しお母様方の懇談会(ママの会)、お父様方による日曜大工(パパの会)が行われました。

同年6月に行われた『親子で作ろう！手打ちうどん』を始め今年度は、新たな活動が企画され充実した保護者会活動となりました。そのかげには保護者会会長、副会長の大きな力(思い)がありました。

今回は『しゃべろっさ！つくろっさ！』の企画までの流れや様子についてご紹介します。

活動のきっかけや目的はなんだったのでしょうか？女性副会長荒川さんにお話を聞きました。

初保育園の6年前は『見知らぬ所』にかわいい我が子を預けるのが不安で不安で：今思えば、大変失礼な保護者だったと思います。でも、先生方はもちろん、たまたま顔を合わせたお母さんから気軽に声をかけていただき私



運動会にて、交通安全指導をする荒川副会長

が尋ねる前に、あれやこれやと親切に教えて下さいました。やっぱり頼りになるのは『ママ友・先輩ママ』ですね。今年、保育園への恩返しという思いで役員をお受け

しましたが、もう一つに、私より遥かに若いママさんたちに、私が教えてもらったことをおすそ分けできればという思いがきっかけでした。これからも長い子育てですが、その過程で卒園ママにどこかで会えるのを楽しみに頑張りたいと思います。

このように語る荒川さん。子育てのベテランママであり、現役ママだからこそこの企画だったように思います。地域とのつながりの薄れや核家族化により、育児の悩みを相談する相手を見つけない、現代。『ママ友』の存在は強い味方のようなのです。思いを実行に移して下さい。役員の方に力を感しました。

「しゃべろっさ！つくろっさ！」企画までにこんな裏話が?!男性副会長吉川さんに聞きました。

## <話し合いは夜の9:30まで!?!>

今回の役員さんはお祭り騒ぎが好きな方が集まったのか、皆さん積極的に話が尽きなかったですね。



## <パパの会の内容は…?>

ママはおしゃべり、パパの居場所は?ってなった時に「男同士が集まって話もな～(笑)なら力仕事でもして、パパの株でもあげようか!」って結論になったんですよ。

## <以前の経験を活かして>

以前にもクラス懇談会があったんですが、保育士さんも一緒だったのでしゃべりづらかった記憶が…だから今回は保育士さん抜きで企画しました(笑)

とん! とん!  
『しゃべろっさ!つくろっさ!』

当日は、総勢56名の方が参加しました。ふれあい遊びから始まり、人間イス取りゲームで子どもも大人も一体になり、会場は和やかな雰囲気。打ち解けたところで、みんなで食事をとりました。心も体も満たされ、いざ本題へ。



ふれあい遊びでは、お友だちのママが自分のママに!

## ママの会

子育ての深い悩みから些細な世間話まで、女性の方はおしゃべりが好きですよね。あつという間に時間が過ぎさり、ママの会を終えたお母様方の表情は、皮剥けたようにいきいきとされていました。

「子どものこと心配せずおしゃべりできたから、とても楽しかった」「子育ての悩みもみんなと話すことで、たいしたことじゃな



お茶しながら、話で盛り上がるお母様方

いんだって気が楽になったわ」と子育てをしているお母様方にとって、とても良い機会になったようです。保育園だけでは成しえなかったこの企画。保護者の方のおかげです。

## パパの会

お母様が楽しくおしゃべりしている間、お父様方はせつせと日曜大工。会話が少ないなかにも笑いあり「こうすると上手くいくやろ」などと知恵を出し合いなが

ら、黙々と進められていました。不慣れなお父様も後半になるにつれ手際がよくなり、子どもたちもその姿を見て「パパこんなことできるんや」とパパの背中をかつこよく感じていたようです。そして完成したお父様方力作の下駄箱とつい立は、木の香りとパパの愛情で溢れていました。

## 保護者会活動を通して

私は、保護者会活動は参加するだけでなく、楽しむものだと思います。そして、保育園は子どもを預けるだけでなく、お父さんもお母さんも子どもと一緒に遊んでほしいと考えています。

以前から活動にもっと参加したい、保護者同士で集まる機会や保育士とのコミュニケーションの場がほしいといったご意見が多くありましたので、保護者のみなさんが参加してのうどん作り等の活動を実施し、親睦と交流を図ることができました。みなさんのご協力のおかげで、楽しく有意義な時間が過ごせたと思っています。

今後はもっともつと、保育士の方や保護者同士がいつでも話ができる雰囲気を作っていきたいと考えています。

足羽東保育園保護者会

会長 西村佳晃



娘さんと作業を進める西村会長

保護者会が充実することで、人との輪が広がり、保護者の方や子どもたちのいきいきとした表情をみることができました。

これからも充実した活動となるよう、保護者の方と共に取り組んでいきます。

## みんなの広場

職員紹介

足羽東保育園の園内には、子どもや保育士の作品がたくさん飾られています。

その中でもひとときわ子どもたちの目を引きつけているのが、谷口弘子保育士の作品です。季節を感じさせてくれる物や、なんとも言えない可愛らしさに溢れた物など、見るたびに心癒されます。これからも、素敵な作品で園内を明るくして下さいね。



子どもに優しくかかわる谷口保育士



どんぐりのお家



どんぐりサンタのクリスマスツリー

# 刺激が心地よい空間に

私たちが外界から受ける光、音、におい、感触といった刺激。これらの刺激を重度の障がいをもつ方が、嫌なものとしてではなく、よりよいものとして取り入れ、落ち着いて過ごせる場所を提供したいとの思いで始めた、スヌーズレンについてご紹介します。

## スヌーズレン

**語源:** オランダ語の“スヌッフレン”(くくん匂いを嗅ぐ)と“ドゥーズレン”(うとうとする)という日常的な単語からできた造語。

**目的:** 重度知的障がいの方の日中活動として始まり、自ら楽しんで過ごそうという取り組み。障がいをもつ方が受け入れやすい目、耳、鼻、皮膚の刺激から自己選択して楽しむ。

**特徴:** 療法や訓練とは異なり、効果に重点を置かない



視覚情報を用いて順番を提示

### 癒しの空間に…

スヌーズレンの取り組みで中心になっている職員は、杉本訓子指導員に話を聞きました。

◎どのようなきっかけでスヌーズレンを始めたのですか？

上司と「できるといいですね」と話していたので、年間支援計画に取り入れてもらい取り組みを始めました。◎スヌーズレンを始めたときの職員の思いはどのようなものでしたか？

スタッフと作りながら「○さんは気に入ってくれそうだね。○さんはどんな反応になるかな」など、期待をいっぱい話していました。今は曜日とメンバーを

職員が決めて利用していただいています。しかし、将来的にはPECS(※)を使用して、利用者の方の好きなときに利用していただけるといいなと思っています。

好きなときに、好きな空間で過ごせることって幸せですね。

◎足羽学園のスヌーズレンの取り組みについての思いをお願いします。

手作りで、スヌーズレンと呼んでいいの不安な部分はありませんが、ミラーボールを見てにっこりしている方、鏡を見て喜んでいる方…そういう方を見ていると本当にうれしいです。足羽学園にはさまざまな障がいをもつ方がいらっしやるので、落ち着いて過ごせる場所が少ないのが現状です。スヌーズレンが癒しの空間になってくれているかなと思います。

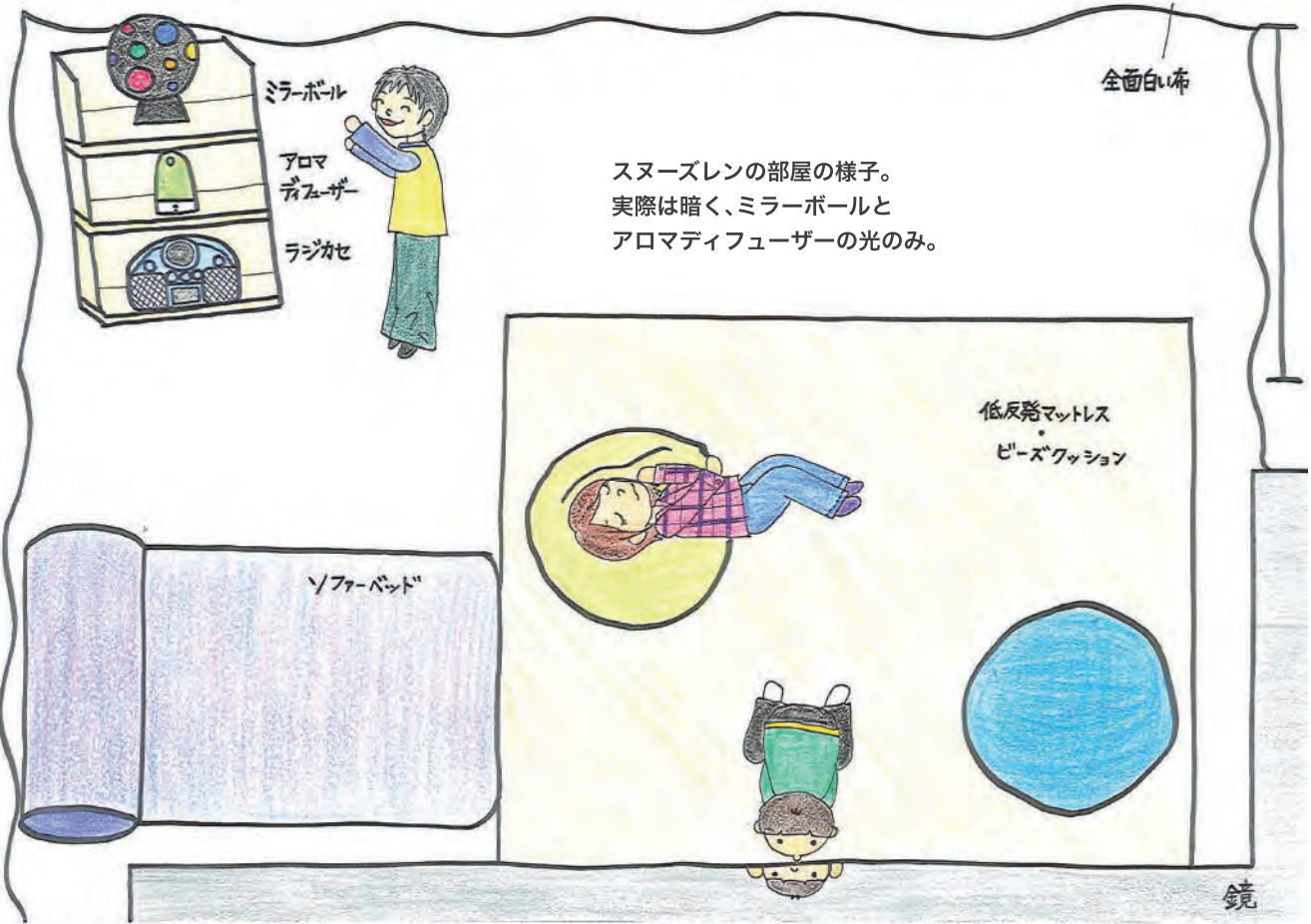
一緒にスヌーズレンの部屋に入る職員も、心が落ち着き、ゆつたりと過ごせる

空間になっていると感じています。ありがとうございます。ました。

(※)PECS: 絵カード交換式コミュニケーションシステム。自閉症やその他のコミュニケーション障がいを持つ方が、自発的にコミュニケーションできるようにするために作られたトレーニングプログラム。



鏡に映る自分と…



スヌーズレンの部屋の様子。  
実際は暗く、ミラーボールと  
アロマディフューザーの光のみ。

## 「キラキラ」

スヌーズレンに入った利用者の方は思いおもいに過ごされます。Tさんはくるくると回るミラーボールを見てにっこりとうれしそうにされます。Mさんは自分の姿が映る鏡がお気に入り。Nさんはビーズクッションにもたれて、ウトウトと気持ちよさそうにしています。

中でも日中一時支援事業として足羽学園を利用されているUさんは、スヌーズレンが大のお気に入りになってくださいました。スヌーズレンに行ける曜日は決まっていますが、それ以外の日でも「キラキラ（ミラーボールのこと）行きたいです」と職員に思いを伝えるに来てくださいます。その言葉が聞けて、職員

はとてもうれしく思っています。

またある日、Kさんが自分の好きなビデオが観れず、イライラしていたことがありました。しかしスヌーズレンに行くと、次第に落ち着き、最後にはにっこり笑顔になっていました。

利用者の方の大きな変化を求めています。が、部屋に入られたときの一人ひとりの反応がとてもよく「作ってよかった」と思います。

どの利用者の方にとっても、スヌーズレンが心地よく、落ち着く空間になっていることを実感しています。刺激を用いることで空間が変わること、刺激の持つちからに気づくことができました。

今後もそのちからを借りて、利用者の方に自己選択の場を提供していきたいと思えます。

## みんなの広場 ～職員紹介～

足羽学園職員の中の皆さんの存在といえば、杉本訓子指導員です。足羽学園には「杉本」姓が2人いるので、利用者の方も職員も「訓子さん」と呼んでいます。

そんな訓子さんは、カラオケ好き♪職場仲間でも場を盛り上げてくれます。そのうえ歌もうまく、HIP・HOP系からバラード系まで、どんな歌でも歌いこなします！



のど自慢大会への出場、そして優勝も夢じゃないかも！左…杉本 訓子指導員

# いきいき

足羽更生園の利用者の方は毎日、作業に一生懸命取り組まれています。特に、開所から1年が過ぎた事業所「フレンズみゆき」では作業以外にも散歩や外食などを取り入れ、より充実した活動を目指しています。今回は地域の中で作業を行う利用者の方のいきいきしている様子をご紹介します。



フレンズ号に乗って、いってきます☆



題字：習字クラブ  
安達 龍幸さん

## フレンズみゆきとは…

平成18年4月、障害者自立支援法が施行され、その中で日中活動の場と居住の場を分ける「職住分離」の必要性が挙げられています。この法律に基づき、足羽更生園では園外における作業所を現在までに2か所設けました。平成19年10月「羽生の郷」、平成22年12月「フレンズみゆき」が開所しました。フレンズみゆきは、足羽更生園から車で15分ほどの市街地にあります。生活介護事業として、毎日9名の利用者の方がマット編みや企業からの委託作業を行っています。

## 園外事業所ができるまで…

利用者の方は、園外事業所ができる前は一日の大半を園内で過ごされてきました。そのため、限られた空間に人が集まり、ストレスから対人関係のトラブルが頻繁に起きていました。その中で羽生の郷、フレンズみゆきが開所し、一部の利用者の方々が園外で過ごすようになり、対人関係のトラブルも減少していきました。また、園内の雰囲気も落ち着き、ゆとりある環境になりました。



時々お父さんも来られ、公園で昼食

の少人数で作業を行い、休憩は畳の部屋でとり、天気の良い日は散歩をしたり、公園で昼食を食べたりするなど和やかな雰囲気です。

もちろん利用者の方、ご家族の中には住み慣れた園内で変わらず過ごしたいという方もおられ、どちらで作業されるかは、ご本人、ご家族の思いを第一に考えています。



緑いっぱい公園



## フレンスみゆきの様子

毎朝、利用者の方は出発時間の30分前から足羽更生園玄関に集まり、職員が来るのを今かいまかと待っています。

フレンスみゆきまでの移動時間は作業への気持ちの切り替え時間でもあります。フレンスみゆきに到着すると、荷物を置き、すぐに作業にとりかかります。14畳ほどの作業室で落ち着いた環境の中、集中して作業に取り組みれています。



作業中の様子

日中活動と居住の場を分けたことで利用者の方の生活にメリハリが付き、作業にとっても意欲的です。中には自分でマットの色合いを考えて編む方もおられ、それは以前の施設で行っていたときには見られなかった行動です。

マットが仕上がるのも以前より早く、丁寧な仕上がりで个性的かつ色彩豊かなマットが次々にできあがります。

## 社会参加を通して…

作業の息抜きとして毎日、散歩の時間を設けています。散歩コースは市街地ということもあり多彩で、公園やスーパー、ショッピングセンターなど、どこへ行くかは利用者の方が話し合って決め、ちよつとした冒険のようです。

また毎月1回、社会参加活動をしています。活動内容は、昼食外出と公共施設に行く体験外出です。昼食外出では

「小川屋」へソースかつ丼を食べに行きました。そこで、メニュー表を見て自分で決め、一人ひとり注文をしました。行ったお店のパンフレットを集めている方は、時折職員に見せてくれます。そのときの表情はとても満足そうで、社会参加を経験することが自信につながっていると、いうことを強く感じています。

## フレンスみゆき

担当 角田<sup>つのだ</sup>支援員

社会参加活動では、公共バスに乗って福井駅前のお店にドーナツを食べに行くなど、いろいろな社会参加の機会を設けています。

日中活動の場と居住の場を分離したことによって、利用者の方はいきいきと生活されており、改めて職住分離の大切さを感じています。

今後も利用者の方のニーズを把握し、より充実した活動を提供していきたいと思っています。



かつ丼はやっぱり「ソースかつ丼」

毎朝『いってきます』と笑顔でバスに乗り込む利用者の方の姿からは作業に行くことへの喜びが感じられます。また『ただいま』と満面の笑みで帰ってくる姿を見ると、一日が充実したものになつているのだと実感しうれしく思います。

利用者の方のいきいきとされている姿は、周りの人から与えてくださっています。

これからも、利用者の方々が自分らしくいきいきと生活され、笑顔を引き出していきける支援を目指して、一歩一歩進んでいきたいです。

## みんなの広場 〜職員紹介〜

成人式を前に…  
平成23年度、入職した  
門前支援員と安野調理員  
は平成3年生まれの20歳。  
成人式を前に抱負を語って  
もらいました。



安野調理員

門前支援員

### 門前支援員

柔道二段！体力には自信があります。笑顔をモットーに頑張ります。

### 安野調理員

成人らしく、自分の行動に責任を持って臨みたいと思います。

これからの活躍に期待しています♪

# アスリートとしての挑戦

## 駆け抜けた世界の大舞台



### 支えを糧に

ひとつのことに集中して努力すること…皆さんは何か一生懸命に努力されていることはありますか？

今回ご紹介する今村彰彦さん(19歳)は、平成23年6月18日から約1か月間アテネで開催された『スペシャルオリンピックス(※詳細)夏期世界大会』に出場され、800M走競技で見事銅メダルを獲得されました。

今回、大会出場までの練習や気持ちについてお話を伺いましたので、ご紹介します。

※知的障がいのある人たちがさまざまなスポーツトレーニング活動を行い、その成果を発表する場。

今村さんは、軽度の知的障がいがあり、平成23年4月から足羽ワークセンターに通うようになりました。当初は、今までの学校生活とはガラリと変わった環境の中で、人間関係を築くことや作業を覚えることなど、さまざまな不安を抱えていました。しかし、そのような中でもくじけることなく、一生懸命作業に取り組み、また、出場が決まった大会への練習にも熱心に打ち込んでいました。

した。何時間も走りこんだり、ハードなトレーニングをこなしたりと、さまざまな練習を積み重ねていきました。また、練習がない日でも、自主的に厳しい練習を欠かさず行っていました。

「当時は、作業の後に練習するのは身体的に辛かったです。身体を休めたいと何度も思いました。でも、家族や周りの人たちが支えてくれたので、頑張ることができました」と語る今村さん。

この言葉にもあるように、何事も諦めず努力していた日々を、一番近くで支えていたのは、ご家族でした。当時のことについて、ご家族にお話を伺いました。

世界大会出場が決定したとき、このスペシャルオリンピックスの存在を教えていただき、高校時代からマンツーマンでご指導いただいている宮川コーチ、推薦していただいた野路さんに感謝の思いでいっぱいでした。冬の自主トレや体調管理、カロリーを常に意識した食事、本人の持ち前の地道な努力と父親や祖母の多大な協力があってこそ、大会までこぎつけることができたのだと思います。

母より



現地での練習にも余念がありません！

## いざ決戦へ！

大会本番、800M走をはじめ3種目の競技に出場しました。とても緊張していましたが、練習をしてきたことや家族のことを思い出し、落ち着いた気持ちで挑みました。緊張しながらも、世界大会という大舞台で走りきった今村さん。これまでの練習の成果がみどり、見事800M走で銅メダルを勝ち取りました。



800m走2分9秒30で、見事銅メダル☆

## 大舞台での経験を経て

大会を振り返り「オリンピックの発祥の地で走れたことがうれしかったです。世界大会に出場したことが、自立する意味でいろんな経験にもなりました。次の目標は、パラリンピックの出場です。これからも練習も仕事も頑張っていきたいです」と語る今村さん。大会に出場したことが、大きな自信へとつながり、更なる成長へと踏み出しました。

このような今村さんの姿を見て、他の利用者の方も影響を受け、仕事に意欲的に取り組まれる姿がたくさん見受けられました。

今村さんは、大会が終わってから『県議会食堂あすわ』で、料理の盛り付けや接客の作業をしています。何事にも一生懸命に取り組んでいます。その反面、職員に心配をかけたくないとい



高村理事長との報告会にて

う思いから、疲れを言動として表現できず、無理をしようとする姿があります。現在、職員はその思いをくみ取り、本人の体調や様子をこまめに確認し、無理なく作業に取り組めるよう支援しています。

世界の大舞台で、見事実力を発揮された今村さん。インタビューの際、とても自信に満ち溢れた表情をされていました。今後今村さんが、さらなる可能性を十分に発揮して、夢に挑戦していただけよう、足羽ワーカーセンター職員一同サポートしていきます。

## みんなの広場

### 職員紹介

竹内寿之支援員は、体力維持健康増進のために、毎週水曜日にバドミントンでいい汗を流しています。



そんな竹内支援員から一言・・・

「バドミントンで体を動かして、心身のリフレッシュをはかっています。アフオー世代なので、丈夫な体を維持し続けるためには欠かせません」

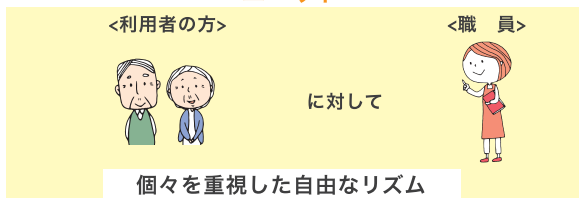
バドミントンを通じて奥様に出会われ、充実した日々を過ごしている竹内支援員。シャトルの打ち合のような、会話の絶えない笑顔いっぱい楽しい家庭を築いています☆

## ユニットケアとは

### 従来の支援



### ユニット



平成24年4月、愛全園は新しく生まれ変わります。現建物に隣接してユニット棟が増設され、利用者の皆さまが、新しいお部屋で生活されることとなります。数名の職員が中心となり動き出しているユニット化に向けての取り組みについてご紹介します。

施設サービスが大きく変わるといふ漠然としたイメージの中、不安に思う職員が多くなりました。正直、私たちも戸惑いが大きく「今、何をしなければならぬのか？」と今も模索している状態です。

### 手探りのなか

今、私たちにできること

『ユニット化』思いも新たに

しかし、会議を定期的に行っていく中で『ユニットケア』とは利用者の方の生活を支援するための一つの方法であり、私たちがこれまで目指し、取り組んできた『その



各部署の職員が集まったの勉強会

人の生き方に尊敬をの園訓に添った支援』の方向性でよいということに、改めて気づかされました。環境が変わること、今まで以上に利用者の方の思いに添った支援がしやすくなります。また、お一人おひとりに向き合って、その人の思いに気づくことが私たち職員の使命でもあります。

そこで、私たちは「ユニットケアとはなにか？」ということを学び伝えることより『毎日のケアの振り返り』の機会をもつこと、個別ケアについてみんなで考え、話し合い、気づきをもつこと』の二つが大事なことでと考え、今回の勉強会を開くことにしました。

### 【視覚で訴える勉強会】

#### ①スライドショー鑑賞

☆利用者の方の、入所により生活環境が変わってしまったことによるやりきれない思い、羞恥心などの胸中がテロップで伝えられる。

☆生活風景、利用者の方の笑顔やふれあいの写真

☆最後に「私たちはなにを支援しようとしているのだろうか」というメッセージ

みんなが真剣に静かに見入っており、なかには涙ぐんでいる人もいました。参

加者からは「利用者の方の気持ちやストレスに伝わる内容で、現状に対して申し訳なきと悔しさを感じる」などの意見ができました。

②職員一人ひとりの振り返りを基にしたグループ討議（感想、気づきについてグループで共有）

勉強会の資料はスライドショー鑑賞のみでしたが、職員一人ひとりから「お一人おひとりをもっと知る必要がある」「利用者の方何をも求めているのか、利用者の方の声が聴きたい」などのたくさんの意見ができました。

それは、それぞれの職員が普段の業務の中で利用者の方の思いに届きたいという気持ちと、実際には充分にできていない現実との間での葛藤を抱えているということがはつきりと見えてきた瞬間でした。

## 思いを共有して

勉強会で感じたことは、『利用者の方が本当はどんなことを感じていらっしやるのか』『利用者の方が私たち職員に合わせてくださっているのではないか』ということ。利用者の

方が自分の思い描く生活を送ることができるよう、私たちが思いに気づき、実現できるように支援することが大事なのだという気持ちで職員みんなで共有することができました。



厨房職員と一緒に「白玉作り」をしています。

## 思いに寄り添うために

「日々、業務の中で、充分に利用者の方の思いを感じる事ができているのだろうか」「自己満足で終わっていないか」など、私たちが言葉で伝えるのではなく、職員自身で自分で感じとり、自分がどうすべきかを考えてもらいたいという思いがありました。

利用者の方お一人おひとりを職員みんなで支え、思いに寄り添うという意識をもつことも大事です。気づいたことの中から、少しずつできることを実践につなげたいと考えています。

お一人おひとりが何を求めているのか理解するためにも、私たちが利用者の方の思いに気づくことができる力を今以上に養うことが大切です。

これからも利用者の方とさらなる信頼関係を築き上げ笑顔あふれる愛全園となるよう歩んでいきたい。

## みんなの広場 ～職員紹介～

今回、紹介する職員は、施設サービス部課長の林好美さんです。林課長は、昨年度まで事務部の課長でしたが平成23年度より施設サービス部の課長として職務しています。

利用者の方の想いを聴くため、利用者の方の傍らに寄り添い、話をしている姿をよく見かけます。いつも優しい笑顔で話をしている姿を見かけると、こちらまでニッコリしてしまうほどです。どんなに慌てているときでも利用者の方に声をかけられると、ゆっくりと視線を合わせ、寄り添って話をしています。



「今日も来ましたよ」とお部屋に入ると「待ってたよ」と迎えてくださいます。利用者の方の想いに対して“できるか、できないか”ではなく、利用者の方の声に耳を傾けることにより『聴くこと』の大切さを知りました。その方の生活の一場面に参加できたらと思っています。

林 好美

# 思いから引き出された力

## ～Aさんとのかかわりを通して～

高齢になると体力の低下により、気持ちの面で落ち込んでしまうこともあるのではないのでしょうか。

今回紹介するAさんも、利用当初は意欲的な様子はあまり見られない方でした。しかし、現在では生活の中で思いを行動に移し、充実した生活を送られるようになりました。そのように至るまでの過程をご紹介します。



Aさん 81歳  
平成22年9月ごろから、短期入所(ショートステイ)を利用。  
性格はもともと社交的な方でしたが、意欲の低下が見られてきました。  
若い頃の趣味は短歌や俳句。

### 見えてきた思い

Aさんは利用当初、食事摂取量にムラがあり栄養面での問題がありました。食事は栄養補助食品を全介助で食べられていました。

また、慣れない場所での生活からか、会話されることもあまりありませんでした。

職員は、Aさんの体調を気にかけ「体調は大丈夫ですか?」と声をかけ、かかわっていきました。また食後に

は肺炎の予防のため、歯磨きを介助で念入りに行っていました。

こうしたかかわりを行うにつれて、Aさんは少しずつ職員の顔や名前を憶えられ、Aさんからの言葉が聞かれるようになりました。そして、利用から1カ月が経ち、徐々に食事摂取量も安定していききました。

Aさんからは、食事の際に「おいしい」「今日は何味かな?」「何か食べたいわ」と食に対して意欲的になり、栄養補助食品以外のものを食べたという思いが聞かれるようになりました。

Aさんは飲み込みに障害があり、普通食を食べることは難しいと思われていましたが、思いを実現できる

ように介護支援専門員(ケアマネージャー)を中心に支援を始めました。

### 思いを行動に



まず取り組んだのが、入れ歯の使用です。初めは慣れないためか「痛いので外して」と拒否されることがあり、Aさんの調子を見ながら声をかけていきました。

ある日のやり取りでは、職員が「ご飯を食べられるようになるためにも入れ歯をはめる練習しますよ」と声をかけるとAさんから「が

んぼるよー」と取り組まれることもありました。

こうしたやり取りを行うにつれ、Aさん自ら「入れ歯を入れてほしい」と積極的に声をかけられる様子が見られてきたのです。

そして1カ月が経ち、入れ歯に対する痛みも少なくなり、念願であった普通食を食べられるようになりました。ムセ込みを防ぐため、とろみをつけて提供し、Aさんからは「どれを食べてもみんなおいしいわ」とムセることなく食べられました。



## 次への挑戦

普通食を食べられるようになった喜びは“自分の力で食べたい”という更なる思いにつながっていきました。

Aさんは、両手のこわばりから介助にて食事をされていましたが、飲み物は自分で飲もうとされる行動が見られてきたのです。そこで、飲むときには職員が手を添え、できるだけ自力で飲めるように支援しました。

また、Aさんは手が思い通りに動かせるようになればと日中の手の体操に一生懸命に取り組まれるようになりました。

さらには、ご家族の提案により、ベッドで休まれているときにも手の体操が行えるように、ボールを握る練習も始めました。

こうしたかかわりと、Aさんの強い思いにより、平成23年5月ごろには、自分の力だけで食事を食べられるようになりました。



そしてAさんの意欲は食事の面だけではなく、さまざまな場面で見られるようになりました。

平成23年8月に一乗滝へ外出されたときには、滝の迫力に「わーすごいわー」と圧倒された様子でした。そして、その景色を俳句にのせて詠まれたのです。

あまりに心を動かされたのか帰りの道中でも「また浮かびました」と創作意欲は止まりませんでした。



## 滝の音 遠くに聞こえる

せみの声

Aさん作

日々の生活の中で、少しでも自分ができることに意欲をもって取り組むこと。そのことが自信となり、生活の充実につながることをAさんから学ばせていただきました。これからもAさんを含め、利用者の皆さんの思いをくみ取り、その方にとって充実した生活が送れるようにかかわっていきます。

## みんなの広場

職員紹介

「ぞりゃ〜!!」



迫力のある声が響く道場で、今日も柔道の技を磨いているのは、足羽利生苑事務員の中村昭子さん。

今度こそ柔道の形競技会で日本一になるわ!



中村さんは柔道以外にも、ソフトバレーボール・ピアノ・エステティシャン・カラオケなど、多彩な特技を持っています。何事にも挑戦する中村さんのパワーは、利用者の方を元気にしてくれます♪

# 足羽福祉会 春夏秋冬 年間行事 アルバム



お花見会



春の遠足



いも苗植え交流



春  
Spring



七夕交流



夏  
Summer



夏祭り



流しそうめん交流



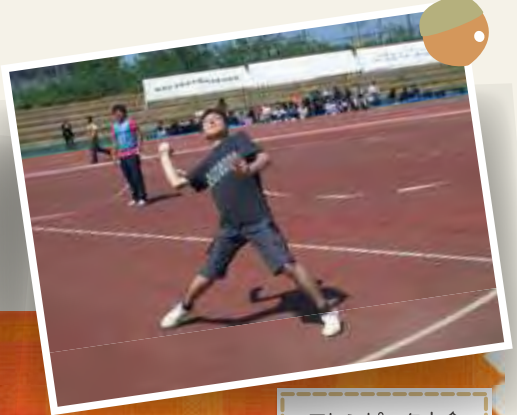
花火大会





# 秋 Autumn

合同レクリエーション



フレンピック大会

運動会



いも掘り交流

年忘れ会

交流発表会



もちつき大会



クリスマス会



# 冬 Winter

# 愛のささえ

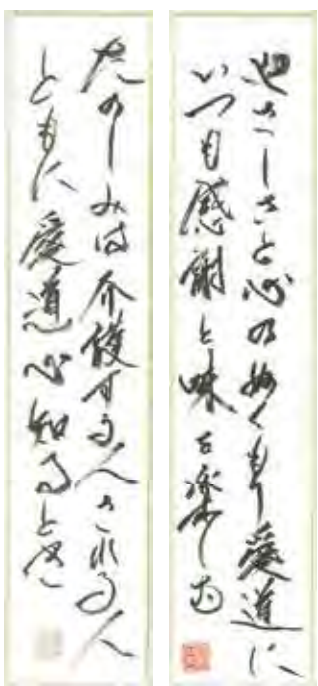
## ご協力ありがとうございました

平成23年8月1日から平成23年11月30日までの方々を掲載させていただきました。

- 【本部】**  
(寄付・寄贈)  
財保堂会教育福祉財団
- 【足羽東保育園】**  
(ボランティア・交流・訪問)  
岩崎恵子 藤尾知代 宮川定幸 時田篤 福井県立図書館 福井市和田ミニ交通公園 上文殊幼稚園 上文殊小学校 福井市東消防署足羽分遣所
- 【足羽学園・足羽更生園】**  
(寄付・寄贈)  
永平寺町松岡地区女性連絡協議会 財保堂会教育福祉財団 藤己(会) 石川太 竹村勉 大関賢治  
(ボランティア・交流・訪問)  
吉田麻実子 黒木涼介 花木さなえ 坂井岬 瀧野裕矢 中村直人 寺坂康平 堅田芽衣 米村舞 清水綾加 岩倉友美 小泉憲夫 北條良慈 中村友美 内田真理子 キリスト教婦人部会 藤己(会) 生消寿太鼓 福井すし研究会「越前会」 永平寺町松岡地区女性連絡協議会 U-MI 西田愛貴 高田杏奈 山本和由 竹村勉 杉森妙子 堀忠夫 斉藤紀子 近藤善勝 小澤晋 久島裕 今井孝之 岩田勇 小北駿介 小北惇平 高石信爾 朝日章恵 藤井はるえ 松本きり子 熊下ゆか 長尾大地 珠村朋美 弓取寛 宮下史也 宮下良子 高山ひろ子 坂井洋子 鶴岡真由美
- 【愛全園】**  
(ボランティア・交流・訪問)  
啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボランティア 啓蒙民踊クラブ 福井市赤十字奉仕団 小木大正琴クラブ 斎藤さよ子 花亀会 山岡玲子 太田美代子 小木孝子 本多春子 奥村美枝子 中嶋安子 坂本幸子 滝波博純 熊谷三和子 橋静枝 鈴木陽子 福井県医療福祉専門学校
- 【足羽ワークセンター】**  
(寄付・寄贈)  
福井県社会福祉協議会 渡辺冷凍食品(株) ヤスタウエルフーズ(株) マエダセイカ(株)  
(ボランティア・交流・訪問)  
高村智子 松原智子 畑節代  
(研修・実習・見学)  
福井県立福井南看護学校 福井大学 教育地域科学部特別支援学校 福井県立嶺北看護学校 福井県立盲学校 仁愛女子短期大学 仁愛大学 福井県医療福祉専門学校
- 【足羽利生苑】**  
(ボランティア・交流・訪問)  
福井市赤十字奉仕団 松宮あさ子 児玉美子 賀川美智枝 丸山グループ まーまれーど美容室 宇都宮友
- 【足羽利生苑】**  
(研修・実習・見学)  
福井農林高校 福井県医療福祉専門学校 福井県立大学 金沢工業大学 仁愛大学 仁愛女子短期大学 福井工業大学附属福井高等学校 福井県自治研修所
- 【足羽利生苑】**  
美 美容室倶楽部浜田 定兼絃美 本田幸雄 竹下千津子 白崎弘 光 仙彩乃 飛山重夫 屋敷千恵子 梯洋枝 宮浦幸子 南出妙子 岸下トモミ 和太鼓笠島 真澄会六条支部 稲津町民謡クラブ パバリナ すずらんの会 オカリーナポルテ ハワイアンバンド・ザ・インキョーズ 福井県立大学吹奏楽部 飛寄来の会 酒庄幼稚園  
(研修・実習・見学)  
福井市医師会看護専門学校 大原スポート医療保育福祉専門学校 福井県立看護専門学校 福井県自治研修所 福井大学医学部 仁愛大学(株) グレート 成和中学校 岐阜女子大学 福井県新任職員 福井市東部民生児童委員協議会 福井県医療福祉専門学校 北陸学院大学 啓新高等学校



(財)保堂会教育福祉財団 寄贈式



梅田正昭様より「愛道」に対する想いの「歌」を頂戴しました

順不同・敬称略

### 編集後記

- 人生一度きり!『実行』の年にします☆ 大島(保)
- 今年こそ、継続して心身を鍛えます! (笑) 江上(学)
- 縁を大切に、多くの人と出会える年にしたいです。 宮下(重)
- 今年もさまざま「ちから」をつけ、頑張ってください。長田(ワ) 栗波(愛)
- 今年も「笑顔」を「ちから」にかえて頑張ります! 栗波(愛)
- 原稿作成に協力して下さった皆様ありがとうございました。今年もよろしく願います。 本田(利)
- 皆様の温かい「ささえ」に感謝申し上げます。 菫のごとく「つながり」をもって、よりよい誌面づくりに邁進します。 安田(本)

発行所

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽東保育園・足羽学園  
足羽更生園・足羽ワークセンター  
愛全園・足羽利生苑

〒910-2178 福井市榎野町20-7  
TEL(0776)41-3108/FAX(0776)41-3199  
http://www.asuwafukushikai.jp/  
発行責任者 高村昌裕

※誌面の写真・氏名についてはご本人(または法定代理人)の同意を得て掲載しています。